

かちまい論壇「挑戦者に熱いエールを」

2018/05/21 11:54

日本銀行帯広事務所長
水川達生

先日の大型連休中に予定されていた宇宙ベンチャー企業による観測ロケットの打ち上げは、今夏以降に持ち越しとなった。昨年7月に次ぐ2度目のチャレンジだったが、想定外の機体不具合の発生により、打ち上げ自体が見送られた。今回は道外からの観覧ツアーも組まれるなど、広く注目を集めていただけに残念な結果となったが、今夏以降の成功を期待させる要素はそろっていると思う。

まず、新たなビジネスにかける企業の熱意だ。国内における民間単独初の宇宙空間到達という難度の高い目標への挑戦は、技術面、経営面ともに多くの課題に直面してきたことと推察する。しかし、それらに屈することなく、明確なビジョンを持ち、日々努力を積み重ねて前へ進むとする関係者の姿からは、何としてもこれを成し遂げるといった熱い思いが伝わってくる。もちろん熱意だけですべてが片づくわけではないだろうが、新規事業を成功に導く上で大事な要素だ。

また、そうした個別企業の取り組みを、地域が一丸となってサポートしていることも大きい。地元の大樹町をはじめ、十勝管内の行政・経済団体や民間企業、住民が自らの夢と重ね合わせながら、さまざまなかたちで後押ししていることが、当該企業にとって大きな支えとなっているに違いない。

こうした新規事業成功の鍵ともいえる要素は、宇宙ビジネスに限らず、すべての事業分野にあてはまる。5月1日付の本紙1面では、2017年の十勝管内の新設企業数が3年連続で前年を上回り、05年以降で最多を記録したことが報じられていた。豊富な土地資源に恵まれた自然環境、それに旺盛な開拓者精神といった十勝ならではの強みを生かした起業・創業の動きは、さらに広がりをみせてよい。何よりここ十勝には、宇宙ベンチャー企業の先例にあるように、熱意ある事業者の前向きな取り組みを地域全体で応援する気風が備わっている。

一方、既存企業の動向はどうか。人口の減少・高齢化が進む中で、気になるデータがある。大手信用調査会社の調査によれば、17年の管内企業の後継者不在率（後継者がいない、未定、未詳の企業の割合）は、実に7割を超えているという。

起業・創業間もない新設企業の増加が数字を押し上げている面もあろうが、社長年齢が60歳代の道内企業の6割超、70歳代でも5割超の先で後継者が不在という調査結果を合わせみると、事業承継への不安は拭えない。後継者の確保・育成やM&A、起業・創業とのマッチングなど、事業承継に関する各種支援策の充実・活用が望まれる。

地域経済の振興・活性化のためには、起業・創業が活発に行われるとともに、優れた事業・企業の継続・発展が欠かせない。新旧双方の勇猛果敢なビジネスの挑戦者に熱いエールを送りたい。